

菅平生き物通信

ホームページ <http://www.sugadaira.tsukuba.ac.jp> 電子メール ikimono@sugadaira.tsukuba.ac.jp 電話 0268-74-2002 Fax 0268-74-2016

小さな隣人たちⅢ (地衣類の戸籍簿作成調査)

現在、筑波大学菅平高原実験センターの菌学研究室では、幅広く菌類の研究を行っています。地衣類も菌類の仲間、前回(菅平生き物通信30号)説明したように藻類と共生をしています。約2万種を含む大きなグループです。そこで、地衣類について、上田市や東信地方にはどのような種が分布しているのか、戸籍簿作りに向けて、少しずつ研究を進めていきたいと考えています。信州大学でも志を持った学生達が地衣類の研究に取り組んでくれています。長野県は国内有数の地衣が豊富な地域です。今後、地衣類の研究をより一層盛んにしなければなりません。

当センターでは、4年前よりナチュラリスト養成講座を開講してきました。その修了生の皆さんは、昨年の春よりセンター公認のボランティアグループ「菅平ナチュラリストの会」として様々な活動に協力して下さっています。養成講座をきっかけに地衣類に興味をもたれた方々が、昨年より「地衣類班」の活動をスタートしました。一昨年、国立科学博物館の柏谷博之先生・大村嘉人先生が調査に来訪された際に、当センター構内でヒメキウメノキゴケという非常に珍しい地衣類を発見されました。この種は国内では四阿山の他、軽井沢、塩尻

などでわずかに知られ、環境省レッドデータブックの絶滅危惧種にも挙げられています。地衣類班の方と一緒に丁寧に見察したところ、当センターの周辺や菅平湿原、意外なことに上田市街地の街路樹にも生えていることがわかりました。この種は東信地方には豊富に生息している可能性があるため、ナチュラリストの皆さんによる更なる分布調査を期待しています。また、地衣類班の皆さんは学生達と一緒に、昨年4月より毎月一回、センター構内の木造の大明神寮で、イギリスの地衣類学者 W. Purvis による入門書「Lichens (地衣類)」の輪読会をしています。興味をお持ちの方が居られましたら、是非お気軽に問い合わせ下さい。いずれは、当センター構内の地衣類観察パンフレットや、上田界隈の

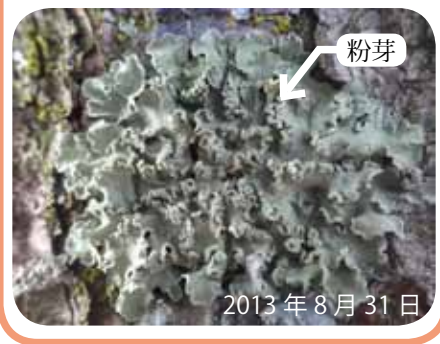
地衣類ガイドブックなどを作成していきたいと考えています。地衣類は、大きく葉状地衣、樹状地衣、痂状地衣の3つに分けられます。まずは、この3つの大まかな形を見分けることから観察を始めるとよいでしょう。葉状地衣がわかったら、ちよっとコツが要りませんが、貴重なヒメキウメノキゴケの特徴を覚えて、是非、分布調査にご協力頂けると有難いです。樹状地衣は、やや古い茅葺屋根などに旺盛に生育しています。屋根の周辺に落下した塊を手にとって眺めてみると、様々な個性を主張した何種かの樹状地衣がひしめき合う様子が観察できます。痂状地衣はさらに小さいので見落としがちですが、よく見ると、樹木や石垣の表面にはごく普通に生えています。ここまで目が慣れると、身近なところにも実はたくさん地衣類が生息していることを実感できるでしょう。(出川洋介)



2014年1月11日
ヒメキウメノキゴケ

葉状地衣類。黄色みを帯びた明るい薄緑色で、波打った縁部に粉状の塊(粉芽)を連なって付けることが特徴。環境省レッドデータブックで、絶滅危惧Ⅱ類(絶滅の危険が増大している種)に指定されている。菅平高原サニアパーク周辺にて撮影。

(写真・ナチュラリスト松崎務)



2013年8月31日
粉芽

キレイだけど危険! 毒を持つ植物たち!

様々な植物たちが花を咲かせるこの時期に、「キレイな花を咲かせるけど、毒を持った植物たち」をご紹介します。



レンゲツツジ

庭木として植えられることも多いので、皆さんもよく見かける植物ではないでしょうか。実はこの植物、痙攣を引き起こす毒を持っています。ツツジの花の蜜は甘く、よく子供が花を取って蜜を吸っていることがあります。この「レンゲツツジ」の蜜を摂取することは止めたほうが良いでしょう。



スイセン

ご存知の方も多いかと思いますが、この植物の葉はニラによく似ていて、間違えて食べってしまう方が後を絶たないそうです。食べてしまうと中毒症状を引き起こし、強い吐き気に襲われます。ニラを発見したと思っても「スイセン」である可能性があることを思い出し、無闇に食べてしまわないように注意しましょう。



スズラン

白い小さな花でとてもいい香りがします。菅平小学校の校章や校歌に使われていて、菅平の人間にとっては親しみのある花です。前に挙げた2つの植物より直接摂取してしまう危険性は低いですが、花を活けてあった水を誤って飲んでしまい中毒症状を起こした例もあるようです。症状としては嘔吐や頭痛、ひどい場合は心臓麻痺なども引き起こす毒性を持っているので注意が必要です。

あなたの身の回りの植物、もしかしたら意外な毒性を持っているかもしれません。一度調べてみてはいかがでしょうか。(正木大祐)

紹介します!! セキレイの仲間

私たちの身の回りで観察できる野鳥、セキレイの仲間を紹介しましょう。

もともと身近なのは「ハクセキレイ」でしょう。広い環境とちよつとした水辺を好み、四季を問わずに駐車場や道路、公園などでも見ることが出来ます。夜は、駅前の木や大きな道路標識の裏などを利用して、集団で休みます。一度走り出したと思えば、いきなり止まり長い尾羽を振り、また走り出す。その様子は、幼少期に遊んだ「だるまさんがころんだ」をして楽しんでるかのようで、可愛いです。人が近づいてもすぐに飛び去ろうとはせずに、走って逃げようとする様子が多々見受けられます。セキレイの仲間には、「石た



ハクセキレイ

また、お腹の部分がオシヤレな黄色を帯びている「キセキレイ」も、河原や小川の近くで見ることが出来ます。そんなセキレイたちを、飛んでいる様子だけで見分けられる方法があります。野鳥の飛び方は種類によつて分けることができます。セキレイの仲間やキツツキの仲間、ヒヨドリは、羽をはばたかせは閉じを繰り返して飛ぶため、飛ぶ軌道が波を描くように見えます。身近なセキレイの仲間、探してみると面白いかもしれません。(長澤亮)



セグロセキレイ

また、「岩たたき」などの別名があり、立ち止まって尾羽を上下に振っている様子に由来します。



キセキレイ

また、「岩たたき」などの別名があり、立ち止まって尾羽を上下に振っている様子に由来します。

また、「岩たたき」などの別名があり、立ち止まって尾羽を上下に振っている様子に由来します。

月夜の熱帯雨林

異国の蒸留酒のような強く甘い香りが立ちこめている。月が明るい。ボルネオの熱帯雨林では、たくさんの巨木の太い幹が地上から天に向かって伸びていて、一つ一つの幹の上端にプロッコリーのような樹冠が乗っている。30〜40メートルの高さの所で木々の



上：フタバガキの花で蜜を吸う蛾。
右：暗い樹上で作業する著者。
(撮影：横塚眞己人)

樹冠が触れあって層を成し、その層から一際高い樹がまばらに突き出て50〜70メートルまで届き、月光を存分に浴びている。そこから、くつきりとした影を下の木々に落としていくのが美しい。私は、50メートルほどのフタバガキの樹の上で、花と虫を観察している。たくさんの花の蕾を15分ごとに見回る。今日は夜7時から10時にかけて花がだんだんと開いていった。5センチメートルほどの花は満月のようなクリーム色で、月明かりに映える。花に細いガラスの管を差し込むと、数マイクロリットルほどある蜜がみるみる登ってくる。蜜には30度くらいの糖度があり、甘い。花の寿命は一日で、朝には蜜が出なくなり花びらが萎れてくる。夜の間中、新鮮な花の強い香りに惹き寄せられて虫が集まる。色々な種類の蛾が

蜜を吸い、コガネムシは花にもぐって花粉を食べる。こうした虫をよく観察すると、体に花粉がついている。フタバガキの花粉を運んでくれる虫なのだ。新種であることも多い。フタバガキの種子からDNAを採取して周囲の樹と比較すると、200メートル以上離れた所からもお父さんが見つかる。虫がそれだけの距離を花粉を運んで飛ぶことで、フタバガキは実を結び、次代の森を作っている。猿の遠吠えが聞こえてきた。今晚の調査はそろそろ終わりにしよう。ロープを懸垂下降で降りると、ものの10秒で林床に付く。月明かりが届かないので、上とは打って変わって深い深い闇の中だ。しかし生き物のざわつきがある。ヘッドランプを付けたがらおよそ30分、暗い森を歩いて帰る。時々誰かに見られているような胸騒ぎがする。ポウツと光っているのはコケだろうか。この森でも戦闘が繰り広げられ、日本軍の野戦病院があったらしい。怖くなると、ランプを消す。自分が森に溶け込んだような気がして落ち着く。

(田中健太)

本稿は「創作雑誌羊ヶ丘 創刊号」(狼編集室)から許可を得て転載しました。

催し物案内

「初夏に花咲く草原の植物を調べよう」

筑波大学菅平高原実験センターの草原に咲く花の観察会を開催します。草原の観察道を「菅平ナチュラリストの会」のボランティアアガイドがご案内します。初夏の草原を観察しながらどんな出会いがあるか、当日をお楽しみにも!!

日時：平成26年7月12日(土)

9時30分〜12時(9時受付開始)

雨天中止(中止の場合は前日にご連絡します)

場所：筑波大学菅平高原実験センター

(長野県上田市菅平高原1278-294)

申込受付：平成26年6月23日(月)〜27日(金)

定員：30名(先着)

参加費：無料(保険代：50円)

申込方法：電子メールまたはFAX

*お申込みの際は、参加者全員の氏名と住所、代表者の電話番号・FAX番号・電子メールアドレスをご記入ください。*定員になり次第締め切ります。

問合せ：申込受付：筑波大学菅平高原実験センター

電子メール：kimono@sugadaira-tsukuba.ac.jp

FAX：0268-74-2016

TEL：0268-74-2002

(担当 佐藤美幸)

● 本通信の印刷・配布は、東郷堂さんに
● ご協力いただいています。

次号は7月
発行予定です